

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	C	配分額	400,000円
研究課題	特別支援教育・教育相談における児童生徒の学校適応スキルを評価する尺度(SAP)の活用に関する研究		

研究代表者

氏名	橋本 創一	所属	教育実践研究支援センター	職名	准教授
----	-------	----	--------------	----	-----

研究分担者

氏名	林 安紀子	所属	教育実践研究支援センター	職名	教授
	大伴 潔		教育実践研究支援センター		教授
	菅野 敦		教育実践研究支援センター		教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

通常教育における特別支援教育や教育相談において、知能検査による専門的・詳細なアセスメントの他に、教師・保護者らが自ら活用できる学校での児童生徒の適応状況を評価する尺度が求められており、現在我が国では標準化された発達の視点に基づく尺度（適応スキルの獲得段階や年齢が判明するもの）は数少ないことから、その開発・標準化を実施した（約1800名（5-15歳）の通常学級在籍の幼児児童生徒）。本尺度（学校適応プロフィールSAP; School Adaptation Profile）は、幼稚園・小中学校の児童生徒の適応スキルについて、発達の視点に基づく行動観察から評価する尺度（5領域/各20項目：生活習慣、手指の巧緻性、言語表現、社会性、行動コントロール）である。その尺度を特別な教育的支援を要する児童に活用した事例を収集・分析し、教師や保護者を交えた効果的で機能性を重視した活用方法について検討した。具体的には、①事例データ（小学生103名）の分析検討、②活用と理解啓発のために教師・指導者・保護者ワークショップを開催した。

①特別な教育支援を要する103事例のSAP分析

発達に遅れまたは偏りが疑れる（SAPのA尺度〔適応スキルの把握〕のいずれかの領域において領域得点が標準化データの学年平均から2標準偏差以下の）小学校児童103名（1年11名、2年9名、3年13名、4年20名、5年25名、6年25名）を抽出し、個々の支援ニーズの特徴を探るためにB尺度〔特別な支援ニーズの把握〕の項目を使用し、クラスター分析を行った。その結果、3つのクラスターが抽出された。これらをB尺度の領域ごとにみると、平均得点の上位2領域が「集中力」「意欲」の領域で占められ、また平均得点の最も低い領域が「身体性」「運動」の領域であるなど、類似した特徴を示した。第1クラスターが各領域で全般的に平均得点が低いグループ、第2クラスターが全般的に著しく高いグループ、第3クラスターが中程度のグループに分類された。心理教育的援助サービスの段階分類から、第1クラスターに分類された53名に対しては具体的な支援は必要ないが教師が気にかける必要性（第1次援助段階）、第2クラスターに分類された20名に対しては常に支援員によるサポートの必要性（第3次援助段階）、第3クラスターの30名に対しては、常時の支援員によるサポートは必要ないが、新しい活動の際の支援の必要性（第2次援助段階）が示唆された。米国知的障害学会（AAIDD）による支援レベル（一時的：intermittent, 限定的；limited, 長期的；extensive）にも通じる見解が得られた。つまり、ADHDや広汎性発達障害、軽度知的障害といった診断から導かれる支援ニーズに目を向けることも重要であるが、学校生活での支援レベルや具体的な援助の内容について評価し考えていく方向性も同時に重要視すべきことが本研究から明らかになった。

②ワークショップの開催 <教師・保護者と意見交換や検討を実施した>

**第1回ワークショップ**；「地域の実情に合った発達障害者支援・学校支援の事例・実践研究～教育フィールドにおける支援方法・アセスメント法・連携研究のあり方～（参加者：56名）」[平成23年9月18日（日）/跡見学園大学/日本LD学会第20回大会/自主シンポジウム]

**第2回ワークショップ**；「軽度知的障害児があらゆる教育の場で増えている！（参加者：45名）」[平成23年9月24日（土）/弘前大学/日本特殊教育学会第49回大会/自主シンポジウム]

**第3回ワークショップ**；「（参加者：16名）」[平成23年12月1日（木）/武蔵野市役所/知的・発達障害指導研究会]

### 研究成果発表方法

- SAP 学校適応プロフィールを用いた特別な支援ニーズについての検討，熊谷 亮・橋本創一・他，日本発達障害学会第 46 回研究大会発表論文集，214-215.
- 地域の実情に合った発達障害者支援・学校支援の事例・実践研究～教育フィールドにおける支援方法・アセスメント法・連携研究のあり方～，橋本創一・佐藤晋治・他，日本 LD 学会第 20 回大会発表論文集，200-201.
- 軽度知的障害児があらゆる教育の場で増えている！，橋本創一・菅野 敦・他，日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集，81.